

平成29年度「学校における交流及び共同学習を通じた障害者理解(心のバリアフリー)の推進事業」成果報告書

団体名	愛媛県
-----	-----

I 概要

1 事業の概要

本事業では、プロの劇団員等を県立新居浜特別支援学校に派遣し、高等部生徒及び交流相手校の県立新居浜南高等学校の生徒に対して、表現活動に関するワークショップを実施した。また、交流及び共同学習の機会として、ワークショップを両校の教育課程に位置付け、年間を通じて17回程度計画的・継続的に実施した。

ワークショップの具体的な内容としては、プロの劇団員等による文化芸術作品(朗読劇、群読、歌唱等)の鑑賞、実演指導を通じた生徒の内面を引き出す自己表現活動、両校生徒によるオリジナルミュージカルの創作などを行った。また、両校の他の児童生徒や新居浜市内の小・中学校及び高等学校、地域住民に対して、創作したミュージカルを市内の文化施設等で上演し、地域全体の障がい者理解に結び付ける機会とした。

2 事業の成果

(1) 教育課程上の位置付け及び年間計画について

教育課程上の位置付けを明確にした年間計画を作成したことにより、段階的・計画的に実施することができた。生徒たちは、12月中旬のミュージカル公演を目標にして、両校の生徒が一体感を感じる事ができた。

(2) 事前学習及び事後学習について

新居浜南高等学校では、総合的な学習の時間(芸術選択)を年間通じて「ミュージカル」とすることで、交流及び共同学習(合同ワークショップ)を実施しない週の総合的な学習の時間では、前回のワークショップの振り返りや、次回のワークショップに向けた準備、交流及び共同学習の事前・事後学習に取り組んだ。

また、新居浜特別支援学校でも、交流及び共同学習を実施するたびに事後アンケートを実施するとともに、次回の交流及び共同学習までにすべきことを明確にして、目標をもって取り組むことができた。

(3) 生徒の主体的な交流について

最初のうちは両校の生徒のほとんどが声も小さく恥ずかしそうにしていたが、ワークショップを重ねるにつれて講師との信頼関係が生まれ、一緒になってミュージカルの本公演に向かって練習する姿勢が生まれた。また、生徒たちは回を重ねるごとに目標を高めていき、活動を楽しめるようになっていった。さらに、4グループに分かれて、台詞のやりとりやミュージカルでの動き、演出が加わっていくにつれ、グループ内で両校生徒が互いに助け合う姿が見られるようになり、学年、学校の垣根を超えて、交流が自然に深まっていった。最後のワークショップでは、両校ともに交流が終わることへの寂しさを表す生徒が多く、深い交流となったことが伺えた。

(4) 全校児童生徒及び全教職員の理解について

両校の文化祭では、ミュージカルの歌を中心としたダイジェスト版を披露した。また、

ミュージカルリハーサル公演では、両校全児童生徒及び教職員が鑑賞し、ワークショップ参加生徒の取組について、知ってもらえる機会となるとともに、高等学校の生徒が特別支援学校の生徒や障がいについて理解するよい機会となった。

(5) 地域への普及・啓発について

この取組の集大成としてミュージカル公演を位置付け、モデル地域の小・中学校、高等学校、福祉サービス事業所等にポスターや案内状を配付し、宣伝を行った。本公演当日は、ほぼ満席の状態、多くの一般客に観劇していただき、たくさんの拍手、多くの方から称賛とねぎらいの言葉を掛けてもらい、一緒に練習した成果を最大限に発揮できた喜びにあふれ、生徒たちは誇らしげな表情をしていた。このように生徒が自分の持てる力を発揮し、力いっぱい表現する姿を見て、一人ひとりの持つ可能性を広く知ってもらえる機会となったことは両校にとって大変成果があった。

(6) 生徒の変容について

互いの学校の生徒や外部の方の前で上演する貴重な経験ができたことに加え、公演後に、数々の温かい言葉をいただき、生徒たちは誇らしげな表情をしていた。生徒たちはこの取組を通じて、新居浜南高等学校の生徒や自分の学校の仲間との連帯感が深まり、これからも新しいことにも挑戦してみようという意欲的な姿勢が生まれてきており、将来への自信につながっている。また、講師へのお礼を自分の言葉で堂々と述べるなど、この事業での大きな成果を感じることができた。

3 事業の課題とその解決のために必要な取組

(1) 講師のスケジュールや両校の学校行事との調整

ワークショップの設定にあたり、両校の行事や講師のスケジュールを重ね合わせて行くことの難しさがあった。そのため、特別支援学校単独のワークショップを実施したり、講師の一部を変更したりするなど、参加者の変更をしながら実施した。日程の調整が難しい状況で、参加できないときの進捗状況等を詳細に引き継ぐ必要がある。

(2) 生徒の個人情報保護について

生徒の個人情報について、生徒や保護者の理解を得ることの難しさがあった。教育活動として実施するということでミュージカル公演への参加は了解してもらったが、個人が特定される写真や氏名掲載について一部了解を得られないところもあった。プライバシー等のチェックはかなり綿密に行う必要がある。

(3) 活動内容の打合せについて

毎回ワークショップ後に担当教員と講師が打合せ会を実施し、活動内容の確認を行い、必要に応じてメールや電話などで連絡、連携を取るようにはしていたが、講師の居住地から本校まで距離があるため、ワークショップ以外に直接会って打ち合わせることが難しく、表現方法など電話やメールのやりとりだけでは伝えきれないところもあった。更なる計画性を持って、実際の演出の方法など、実際に会ってすり合わせが必要な部分については、ワークショップ前後に確認できるよう、時間の設定を工夫する必要がある。

本事業の運営面では、上記のような課題があるが、ワークショップやその成果発表としてのミュージカル公演を通じて、生徒一人ひとりの輝きを広く知ってもらえるよい機会になった。これらの成果や課題を踏まえて、次年度以降の取組に関しては、課題解決の方法を検討していきたい。また、今年度培った両校の交流及び共同学習の成果を継続していくために、保護者の理解と協力、交流校や地域との連携をさらに図っていくための方策を研究していきたい。